

記入例

特 第 1 号 様 式 (そ の 2)

申 告 書

住所、氏名、印鑑は申請書と同じです。

住所	松山市〇〇町〇丁目〇番〇号 〇〇マンション 〇〇号室		氏名	松 山 太 郎 松山	
1. 確認事項 (下記のうち該当する項目の□にチェックを入れてください。)					
<input checked="" type="checkbox"/> 新型コロナウイルス感染症の影響で収入が大幅に減少し、修学のための費用に困っている。 <input checked="" type="checkbox"/> 大学や専門学校等による修学を継続し、卒業を目指している。					
奨学資金借用希望 (希望金額に〇印を付けてください。)	30万円	50万円	70万円	90万円	110万円
2. 修学に必要な費用 (単位: 円)					
年間の学費(A)	800,000円		Aのうち不足する学費(B)	400,000円	
B以外で不足する修学費 及びその主な内訳	教材費 10,000円 研修費 30,000円 合計 40,000円				
3. 収入の減収状況 (昨年12月以降の連続した2か月分とコロナ影響後の連続した2か月分の収入状況) (単位: 円)					
収入の種類	影響前の月収 (2月間) (※1)		影響後の月収 (2月間) (※2)		
該当年月	令和2年1月	令和2年2月	令和2年4月	令和2年5月	
家族等からの援助 (仕送り)	① 120,000	③ 120,000	⑦ 100,000	⑧ 90,000	
勤労収入 (アルバイト等)	② 80,000	④ 70,000	① 0	⑤ 0	
奨学金	0	0	0	0	
その他	0	0	0	0	
合計	200,000	190,000	100,000	90,000	
減収率	$\text{減収率}(\%) = [1 - \{(\text{⑦} + \text{①} + \text{⑧} + \text{⑤}) \div (\text{①} + \text{②} + \text{③} + \text{④})\}] \times 100$ 51.3%				
概要	※申請者自身の修学費負担状況や減収に至った状況を詳細に記入。 コロナウィルスの感染拡大でアルバイトをしていた店舗が休業となり、休業期間中はアルバイト収入がなくなり、仕送りと貯えで生活していた。現在、店舗は再開したものの、勤務時間は大幅に減らされた。学費は前期分の納付は終えており、後期の納付が控えているが、アルバイト収入が激減し、親からの支援も期待できない状況である。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 10px auto;"> 出勤日数の減少、出勤停止や事業の休業等、減収になった経緯を可能な範囲で詳細に記入してください。 </div>				

(※1) 新型コロナウイルス感染症が影響する前の月収額を記入してください。

(※2) 新型コロナウイルス感染症の影響により減収となった2月間の月収額を記入してください。

また、影響前及び影響後ともに給与明細書や振込通帳等金額がわかるものの写しを添付してください。

申告書の記入上の注意

確認事項

- ・貸与の条件に該当される方であるかの確認です。該当する項目にチェックを入れてください。両方に当てはまる方が貸付の対象となります。
- ・奨学資金借用希望の金額は、「2. 就学に必要な費用」で不足する学費や修学費に応じた金額を選択してください。審査で不足額に比べて過大と判断した場合は希望額より少ない金額で貸付決定する場合があります。

修学に必要な費用

- ・年間の学費 (㉔)
通学する学校に納付する授業料等（施設設備費、教育充実費等の名目で学校に納付するものも含まれます）の年額を記入してください。
- ・㉔のうち不足する学費 (㉕)
これから学校に納付すべき学費のうち、ご自身の現在の収入で不足が見込まれる金額を記入してください。
- ・㉕以外で不足する修学費及びその主な内訳
学校に納付する学費以外で修学に必要な費用と金額、その合計を記入してください。
※修学費の例
授業で使用する教材費、研修を受けるための費用、通学のための交通費
遠隔授業を受講するための費用（パソコンの購入費等） 等

収入の減収状況

コロナウィルス感染拡大の影響前の連続した2カ月と影響後の連続した2カ月の主な収入を記入してください。

なお、確認のための書類として、給与明細書や家族からの支援や勤労収入、奨学金等が振り込まれている通帳の写しを添付してください。